

令和4年度 堀之内小学校 学校経営構想

1 国や県、市の教育施策や基本方針

国や県、菊川市がめざす教育を踏まえ、活気ある堀之内小学校の教育活動を展開する。

国 学習指導要領(「生きる力」の育成)

県 静岡県の教育(「有徳の人」の育成)

市 菊川市の教育(「確かな学力と思いやりに満ちた学校づくり」)

2 学区について

菊川市の北部に位置し、JR線北側唯一の学校。郷土意識が強く、町部コミ協の「ふるさと学校(通学区合宿)」は平成16年に始まった。地域における子どもたちの「受け皿」探しが話題になったのが平成14年であるから、その取組は早かった。

西方地区も平成28年から通学区合宿を始めている。名称「たきのやのみなみの学校」は、郷土意識の表れである。

教育之会の活動や授業参観には父親の姿も多く見られ、学校に対する関心の強さを感じる。

注：『たきのやのみなみ』

堀小第1応援歌の歌い出しは、「♪滝の谷南、高田の北に、鍛えに鍛えしその鉄脚を、はやと走り～」となっている。



3 児童の実態

<よい表れ>

- (1) 素直。明るく元気。 →本校の一番の自慢・財産である。
- (2) 思いやる心があり、下級生の世話をしたり、遊んだりすることができる。
- (3) あいさつができる子が、増えてきている。
- (4) 行事や活動に積極的に取り組む。

<あらためたい表れ>

- (1) 学習意欲の低い子、学習習慣や構えの身についていない子が少なからずいる。
- (2) あいさつや授業中の発表を苦手(質・声の大きさ)とする子がいる。
- (3) 学級内での人間関係づくりが苦手な子が少なからずいる。
- (4) 難しいことや苦手なことに向かう気持ちが弱い子、自信を持たず自主的に動くことが苦手な子がいる。

4 子どもにつけたい力

- (1) 基礎学力(読み、書き、計算、根気強く考える力)
- (2) 自己肯定感、自尊感情
- (3) 規範意識(ルールやマナーを守る心)
- (4) 自己表現力(人前でもきちんと話す力)
- (5) 思いやり(思いやる心、認め合う心)



学力(3年算数 重さ)



学力(4年理科 乾電池)



規範意識(1年 名札つけ)



仲間意識(3年 長縄跳び記録会)



仲間意識 (掃除中に見えた思いやり)



規範意識(3年 もくもく掃除)

5 学校教育目標

蛍雪の力

『蛍雪の力』とは？

→よりよい自分や仲間をめざし、がんばり続ける力

- ①めあて・考えをもつ力
- ②よく聴き、はっきり話す力
- ③挑戦する心
- ④乗り越える心・力
- ⑤認め合い、高め合う心
- ⑥仲間の一体感を大切にする心



6 重点目標 ※指導の場で常に意図的に語る言葉

よりよい自分をつくろう ～本気のかで～

R2から継続

本校児童は、笑顔が素晴らしい。子どもの笑顔は、学校の自慢であり財産である。学校は、今後も教育活動を通して子どもたちの笑顔をいっぱいにしていく。とりわけ、本校児童のよさである「活気・元気」いっぱいの笑顔に、「本気」の笑顔を加え、正に日本一の学校を目指したい。

『本気』の笑顔とは…。

- ・黙々と働いた後の笑顔
- ・いつもより頑張れた後の笑顔
- ・粘り強く取り組んだ後の笑顔
- ・苦手を克服した笑顔
- ・「やってよかった」と思えた時の笑顔など

～じっくり・もっと・とことん・何べんも・完璧に・最後まで・昨日より・もう少し～

学校評価 目標数値

		児童			保護者		
		R2結果	R3結果	R4目標(R3目標)	R2結果	R3結果	R4目標
1	学校が楽しい	95	○96	93 (93)	93	○97	93
2	みんなで何かする。楽しい	96	96	91 (90)	96	○99	91
3	授業に主体的	96	93	91 (90)	85	○92	91
4	授業がよくわかる	96	93	92 (92)	89	89	92
5	信頼できる先生	97	93	91 (91)	88	○94	91
6	地域や社会をよくするために	90	80	81 (80)	58	○85	81
7	話し合う活動を通して、 考えを深め、広げる	95	92	91 (90)	86	○92	91
8	ICTをどの程度使ったか	97	○98	98 (97)	89	○97	98

「本気」は、実は、4年度の職員の姿勢でもある。

7 資料 「螢雪」について ～堀小教育の伝統の精神～

『螢雪の功』

孫子世録にいわく、
康家貧にして油なし

常に雪に照らして
書を読む
少小より清介にして、
交友雑ならず
後に御史大夫に至る

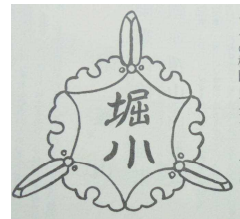
晋の車胤、字は武士、
南平の人なり
恭勤にして倦まず、
博覧多通なり

家貧にして
常には油を得ず
家月には則ち練囊に
数十の螢火を盛り、
以て書を照らし、
夜を以て日に継ぐ

『蛍雪の功』

昔、強い志をもって、
勉学に励む車胤と孫康
という若者がいた。
二人とも家が貧しく、
夜勉強したくても灯り
に使う油を買うお金さ
え無かった。
そこで孫康は、冬に
は窓の近くに雪を積み、
月の光が反射した明か
りで勉強を続けた。一
方車胤は、夏は蛍を集
めて袋に入れ、その光
で徹夜で勉強した。
二人の努力は報われ、
やがて、志した御史大
夫という高官となって
出世した。

明治43年、漢人廣吉先生(明43尋常小着任)が、中国の故事『蛍雪の功』を基に校章を作り、この教えを本校教育の基として広めました。校章は、3匹の蛍が「堀小」の文字を囲んでいます。中央の白は、雪の結晶をイメージしたものです。この蛍雪の精神が堀之内小学校教育の根底として受け継がれてきています。 ※『堀之内小学校百年誌』より
以来、学校教育目標が変遷しても、本校教育の根底は「蛍雪の精神」として、大前提のように当たり前に考えられてきました。



平成27年度からは、この「蛍雪」を重点目標(R2からは学校教育目標)に掲げ、子どもレベルで日常化を図る実践が始まりました。その中で、蛍雪の精神を、児童はもとより広く家庭や地域にも伝えるためにオリジナルキャラクター「蛍雪くん」が作られ、堀小教育の充実に大きな役割を果たしてきました。「蛍雪くん」は、児童に親しまれ、また行事や集会に登場。今では学校中の至る所に「蛍雪くん」を用いた掲示が見られるようになっています。そして、2年度からは、重点目標の新しいキーワードとなる「本気」をイメージする「本気くん」が仲間入り。がんばる子どもを力強く応援するキャラクターとなっています。さらに、4年度には「聞くくん」が加わります。



蛍雪くん1号



2号



3号



本気くん



聞くくん

8 経営の重点

学校は保護者や地域と連携して教育活動を推進していく。

学力向上は重要課題。年間約200日(1000時間)を超える授業を中心に、身に付けるべき力の定着・向上に取り組む。

日常生活指導をきちんとすると共に、「持続的に安定した教育を展開する学校」を目指す。時が経っても、「堀小の子は堀小の子」「堀小の子って、こうだよ」と言える学級、学年、学校づくりをしていく。

以上のことから、学校経営の基本方針を次の9点とする。



(1)教師の営みの核に、「聞く子を育てる」「勇気づけの言葉」を据える

多様な価値観や考え方、多様な現れや行動をする子が増えてきている。それぞれに背景や理由があるととらえ、これまで通り丁寧な働きかけをしていく一方で、より効果的な指導のあり方を考えていく。

キーワードは2つ。

1つめは、「聞く」。人のことを大切にして聞く子を育てる。そして、その心を教え合いや助け合いの心へと高めていく。

自分自身の「よさ」を見つけられない子がいる。自己肯定感の低い子がいる。教師は、その子のよさを見つけ、ほめることを通して、子どもたちによりよく生きていこうとする「勇気づけ」を行う。



(2年生 話す人の方を見る)

(2)コロナとともに

「withコロナ」が続く。当然「3密」回避や感染防止対策も続く。これまで同様に行事や活動の制限や見送りが考えられるが、「こうやればできる」「これならできる」という方法を考える中で、「蛍雪の力」「よりよい自分をつくろう～本気のかで～」を実現していく。

(3)確かな学力

子どもたちの学校生活の大部分を占めるのが「授業」。ここで確実な指導をする。本時における「つけたい力」を明確にし、定着を図る。

一人一台のタブレット。求められるのは積極的且つ効果的な活用。「使ってます」から「効果的に使っている」へ。

(4)心の教育の推進

基本的な生活習慣・規範意識を身に付けさせることは全ての教育活動の基盤。子どもにとって学級は「生活の基地」。「だれもが尊重され、きびしさやさしさのある学級づくり」を目指す。そのために

- ①活力のある学級(係や当番の動きが見える。〇〇に向けてみんなが動く、等)
- ②生活の基礎基本をわきまえた学級(名札。ハンカチ・ティッシュ。爪。言葉使い等)
- ③環境の整った学級づくり(朝の窓開け。ゴミ箱の始末。落ちているごみなし、等)を進める。

(5)活力と潤いのある教育活動の推進

大切にしたい活動

- ・広い運動場、自然がいっぱい子どもの森での遊び。長い休み時間は、「みんな外に！」
- ・委員会活動は、責任ある日常当番活動を重視。
- ・あいさつは、「いつでも、どこでも、自分から」。



(6)安心、安全の学校づくり 『命はすべてに優先する』

①生活安全

- ・ 毎月の安全点検を確実に。
- ・ 校舎内外での子どもたちの動きに気を配る。教師のいない所、目が届かない所での行動に注意を。昇降口や正門までの「児童送り出し」が大きな意味をもつ。

②交通安全

- ・ 特に交通事故は「一寸先」に危険がある。帰りには、しつこいくらいに、「横断歩道を渡る」「飛び出しをしない」「ヘルメットをかぶる」等を子どもに繰り返し言い続ける。

③災害安全

- ・ 平時にこそ、とりあえず多様な想定(訓練(検討)を重ねる。『完璧なマニュアル』なし。一つ一つやっていく。

(7)保護者・地域との連携

本地区は、学校への関心が強い。「おらの堀小」「自分たちが過ごした堀小」「前の堀小はこうだった」という思いを色々な場面で聞く。強い関心が大きな味方の力となるよう連携を進める。



(8)「学びの庭」構想。西中学校区一貫教育が本格スタート

校区内の縦(小中間)と横(小小間)のつながりを深める。学舎運営協議会(自治会、コミ協、健全育成、PTA等で構成)の人選も済み、6月には、合同研修会が行われる。関連して、「魅力ある学校づくり」の取組もある。

(9)教職員の資質向上と組織の活性化

指導部会では、重点目標や行事や活動の目標が達成されるように具体的な手だてを打つ。「去年の提案通り」ということも勿論あるが、責任をもって提案を。学習や生活指導など継続性の問われることについては、PDCAのサイクルの中で、根気強く指導していく。生徒指導や指導部からの投げかけは、「みんなで取り組む」「確実に取り組む」ことを念頭におく。

令和4年度も、

堀之内小は、『蛍雪の力』『本気の手』で子どもを輝かせます。